約50枚のHalo Screenモジュールで何ができるか？

この記事はHalo Screenの開発者　Le Covert Sartorialistが
Sprinter Custom Ghillieに寄稿した記事を許可を得て翻訳し
G.A.W.が一部追記を行ったものになります。

©Le Covert Sartorialist, Sprinter Custom Ghillie, G.A.W.

Reflectance Management Kitを使ってみましょう！
驚くべき速さで取り付けができるモジュールで何ができるのか？
見てみましょう！

・スタート
5色x10枚ずつのモジュールとLCSジップタイ
（Reflectance Management Mini Kitの約半分の量になります）

・ステップ1
モジュールを長さ半分ずつにカットします。
これは今回ベースとなるERDLの2Dパターンの大きさと
大体同じになります。

”Canopy”カラーを取り付け。

モジュールにはあらかじめLCSジップタイを通す穴が開いているので
それにLCSジップタイを通した状態にし、衣類に開けた穴に
LCSジップタイ付きモジュールをどんどん通して縛っていくだけで
素早く取り付けが可能です。

・ステップ2
”Mint”カラーを取り付け。

・ステップ3
”Treeline”カラーを取り付け。

・ステップ4
”Alpage”カラーを取り付け。

・ステップ5
”Tropic”カラーを取り付け。

・ボーナスステップ(必要に応じて)
Oak Master garlandsを準備します。

*Oak Master garlandsはReflectance Management Kitには
含まれていません。

”Cold Coyote”カラーのNano Screen garlandsを取り付けます。

*Oak Master garlandsはReflectance Management Kitには
含まれていません。

フィールドでの確認1

その場で”Faded Beech”のNano Screen garlandsを追加したくなります。
下地のERDLがシルエットを崩し、背景のダークアースに
溶け込むのを確認しました。

ERDLの長所はそのままに、3Dモジュールでの強化によって
弱点を解消しています。

フィールドでの確認2

縦方向

フィールドでの確認2

横方向

想定される使用状況での確認が済んだら、
残った背面も同様に偽装しましょう。

これがReflectance Management Mini Kit ＋ αで賄える
大まかな作例になります。